

様式(7)

|  |  |
|--|--|
| 報告番号   | 甲 保<br>第 1 2 号<br>乙 保  |
| 論 文 内 容 要 旨  |  |
| 氏 名  | 松 崎 和 代  |
| 題 目  | Associations of menopausal symptoms with job-related stress factors in nurses in Japan<br>(日本の看護師における更年期症状と仕事関連ストレス要因との関連) |
| <p><b>【目的】</b> 本研究の目的は、本邦の周閉経期の看護師において、更年期症状と仕事関連ストレス要因との関連を明らかにすることである。特に、管理職と非管理職との間で、更年期症状と仕事関連ストレス要因に違いが存在するかどうかについて検討を行った。</p> <p><b>【方法】</b> 全国の45～60歳の1700人の看護師を対象として、Greene's Climacteric Scale(GCS)および職業性ストレス簡易調査票を用いて質問紙調査を実施し、種々の要因について解析を行った。</p> <p><b>【結果】</b> 質問紙の回収率は77.4%であった。有効回答が得られた管理職514名と非管理職655名を分析対象とした。対象者の平均年齢(±SD)は51.2(±4.2)歳であった。閉経状況は、premenopause(28.9%), perimenopause(18.8%), postmenopause(45.4%), 人工閉経(6.9%)であり、管理職と非管理職との間で有意差はなかった。看護師全体でみると、更年期症状としては、「疲れや倦怠感を感じる(94.8%)」「イライラする(77.5%)」「集中力がない(74.8%)」と感じている割合が高かった。一方、仕事関連ストレス要因としては、心理的な仕事の質的負担が多く、仕事関連ストレスの総得点は、更年期症状の総得点と有意な相関関係があり、(<math>r=-0.291, p&lt;0.01</math>)、特に精神神経症状との相関が強く認められた(<math>r=-0.306, p&lt;0.01</math>)。また、精神神経症状は仕事関連ストレス要因のうち対人関係と相関が認められた(<math>r=-0.223, p&lt;0.01</math>)。血管運動神経症状や知覚運動症状については、仕事関連ストレス要因と明らかな相関関係がみられず、看護師の更年期症状は、雇用形態や勤務形態、喫煙や飲酒習慣などの個人属性とも相関がなかった。一方、管理職と非管理職の比較においては、管理職は更年期症状として、「憂鬱になる」「急に泣きたくなる」と感じている割合が非管理職より有意に高かった(<math>p&lt;0.05</math>)。仕事関連ストレス要因については、管理職は心理的な仕事の量的負担に関連したストレスが有意に強く(<math>p&lt;0.05</math>)、非管理職は身体的負担、仕事のコントロール、技術の活用、職場環境と働きがいに関連したストレスが強かった(<math>p&lt;0.05</math>)。精神神経症状は管理職、非管理職ともに、仕事関連ストレス要因の対人関係と相関があり(管理職<math>r=-0.226, p&lt;0.01</math>、非管理職<math>r=-0.222, p&lt;0.01</math>)、管理職の精神神経症状は仕事の適性度(<math>r=-0.264, p&lt;0.01</math>)と働きがい(<math>r=-0.260, p&lt;0.01</math>)との間にも相関関係が認められた。</p> <p><b>【考察】</b> 仕事関連ストレス要因と更年期症状の間には相互関係があり、ストレスの多い労働条件が更年期症状の悪化と関係している可能性がある。仕事関連ストレスをできるだけ少なくすることは、更年期症状の軽減につながり、看護師の健康を保つために重要であると考えられる。</p> <p><b>【結論】</b> 医療従事者は、周閉経期女性において、更年期症状が仕事関連ストレスと関係していることに注意すべきである。看護師の管理職と非管理職における更年期症状や仕事関連ストレス要因の違いに関する情報は、職位に応じた看護師個々の健康管理に重要である。</p> |  |